

愛知県美術館の概要

1 活動の基本的な考え方

愛知県美術館は、人々が芸術文化に寄せる関心の高度化・多様化に十分応え、また、訪れる人々がより豊かな感性を養うことのできる場となることを目指している。そのため、美術の歴史的な流れを系統的に紹介するとともに、絶え間なく展開を続ける今日の新しい美術動向にも積極的に取り組む。

2 施設

企画展示室（10階）	：	3室	1,480㎡
所蔵品展示室（10階）	：	5室	1,400㎡
ギャラリー（8階）	：	10室	3,113㎡

3 主な事業内容

(1) 美術品の収集

県民の財産となる優れたコレクション形成のため、主に20世紀以降の美術を対象とする収集方針に基づき、美術品収集委員会の承認を経て、購入・寄贈・管理換えにより収集を行っている。購入には、1988年度に設置された美術品等取得基金が充てられている。

美術品の収蔵状況（2024年3月末日現在） (単位：件)

区分	総数			
	購入	寄贈	管理換え等	合計
絵画（洋画、日本画、版画、水彩・素描）	1,515	3,228	54	4,797
立体（彫刻・立体、インスタレーション、考古遺物）	220	582	3	805
写真・映像	143	236	31	410
工芸	5	2,187	5	2,197
書跡・資料	61	607	22	690
小計	1,944	6,840	115	8,899

*上記の内 藤井達吉コレクション1,477件 木村定三コレクション3,309件

(2) 所蔵作品の保存

美術品の保管には、空調や防犯・防災に高水準の設備をもつ収蔵庫を用い、保存・修復専門の学芸員を配して、良好な保存環境の確保に努めている。また学芸員による作品の状態点検を通し、必要に応じて作品の保存処置や修復を行っている。

(3) コレクション展

収集した作品を展示公開するコレクション展は、2024年度については年間を4期に分け、その都度、内容を変えて開催する。展示室ごとに多様なテーマを設けており、このうち一室は「木村定三コレクション室」としている。

(4) 企画展

歴史に残る重要な美術動向や、優れた芸術家の回顧展、古典的・伝統的な形式の美術からジャンルを越えた新しい制作活動まで、美術の幅広い領域を紹介する企画展を、自主企画や他館との連携による共同企画などによって開催している。

2023年度展覧会	会期	入場者数
近代日本の視覚開化 明治—呼応し合う 西洋と日本のイメージ	2023年4月14日(金)～5月31日(水) 41日間	9,070人（一日平均221人）
幻の愛知県博物館	2023年6月30日(金)～8月27日(日) 51日間	10,144人（一日平均199人）
生誕120年 安井仲治	2023年10月6日(金)～11月27日(月) 46日間	6,040人（一日平均131人）

【2024年度企画展】

展覧会名	会期	概要
コスチュームジュエリー 美の変革者たち シャネル、ディオール、スキ ャパレッリ 小瀧千佐子コ レクションより	4月26日(金) ～6月30日(日) 57日間	コスチュームジュエリーとは、宝石や貴金属に限定されず、ガラスやビーズ、樹脂など多種多様な素材で制作されるジュエリー。素材から解放され自由なデザインを提案できるコスチュームジュエリーを、1920年代以降シャネルやディオール、スキャパレッリなどフランスのオートクチュールのデザイナーたちが取り入れました。やがてヨーロッパでは専門工房が生まれ、職人の高度な技術がジュエリーの美しいデザインを支えました。戦後は特にアメリカで、マスプロダクションのファッションとともに広く普及します。本展はコレクターの小瀧千佐子氏による世界的に希少なコレクションを通して、コスチュームジュエリーの歴史や魅力を紹介する日本初の展覧会です。
アブソリュート・チェアーズ 現代美術のなかの椅子なる もの	7月18日(木) ～9月23日(月・ 振休) 59日間	椅子の機能は、座る姿勢を支えるというだけにとどまりません。拡張された身体として、権威の象徴として、あるいは記憶の依り代として、椅子はさまざまな意味や象徴性をまといまわります。アーティストたちはこうした椅子と結びつく多様なイメージを捉え、作品を通じて社会の中の不和や矛盾、個人的な記憶や他者との関係性などを浮かび上がらせてきました。本展は、デザインの文脈を離れた新たな視点で、主に戦後から現代までの美術作品におけるさまざまな椅子の表現に着目し、椅子という身近な存在から社会や人間の有り様を考察します。
相国寺承天閣美術館開館 40周年記念 相国寺展 —金閣・銀閣 鳳凰がみつめ た美の歴史	10月11日(金)～ 11月27日(水) 42日間	京都御所の北に在る相国寺は、室町幕府三代将軍足利義満の発願により創建されました。夢窓派の祖、夢窓疎石を開山に迎え、十年を経て実質上の開山である春屋妙葩の代に大規模な伽藍が完成しました。山外塔頭の高僧（鹿苑寺）、銀閣寺（慈照寺）を含む相国寺派は、多くの名品古画を集め、各時代の重要な作家を育てました。これらの作品は、開館から40年を迎える境内の承天閣美術館で公開されてきました。本展では、中国から輸入された古画、名僧達の頂相や墨蹟のほか、室町時代の画僧、如拙、周文そして雪舟、さらに江戸時代初期の狩野探幽や江戸時代中期の伊藤若冲等の名品を通じて、相国寺を中心に形成された京の美の世界を紹介します。

パウル・クレール展 創造をめぐる星座	2025年1月18日 (土) ～3月16日(日) 50日間	抽象的でありながら、豊かな詩情と物語性のある作品を描いたパウル・クレール(1879-1940)は、日本でも親しまれているスイス生まれの画家です。しかしながら、彼が表現主義やシュルレアリスムといった同時代の運動とどのように関わっていたのかは、あまり知られていません。ベルンのパウル・クレール・センターの協力を得て開催する本展では、同時代の芸術家の作品との比較を通じて、歴史を超越した天才、あるいは内省にふける孤高の芸術家としてではなく、多くの人や情報との交差のなかで生きた芸術家としてクレールを捉え直します。
-----------------------	--	---

(5) 普及・教育事業

- ア 企画展・コレクション展に合わせた記念講演会やギャラリートークの開催
- イ 申し込みを受けた各種団体、学校に対する、展示解説やガイダンス
- ウ 学校の教員を対象とした鑑賞学習交流会や鑑賞学習ワーキンググループの実施
- エ 小学生・中学生・高校生向け鑑賞プログラムやオンライン授業の実施
- オ 視覚障がい者向け鑑賞会の実施
- カ 愛知県陶磁美術館、県内市町村との共催による移動美術館の開催
- キ 学芸員資格取得のための博物館実習の実施
- ク 友の会との連携、会員対象の動画配信

(6) 映像事業

映像表現の可能性を拡張するような実験的動向に着目し、「アートフィルムフェスティバル」などの上映会の開催や、オリジナル映像作品の制作などを行っている。

4 ギャラリー展示室利用状況

(1) 2023年度の美術館ギャラリー運営状況

2023年度の美術館ギャラリー展示室の利用申込みは169件であったが、追加申請が10件あり、179件の利用許可をし、開催された展覧会は179件であり、入場者数は270,951人であった。

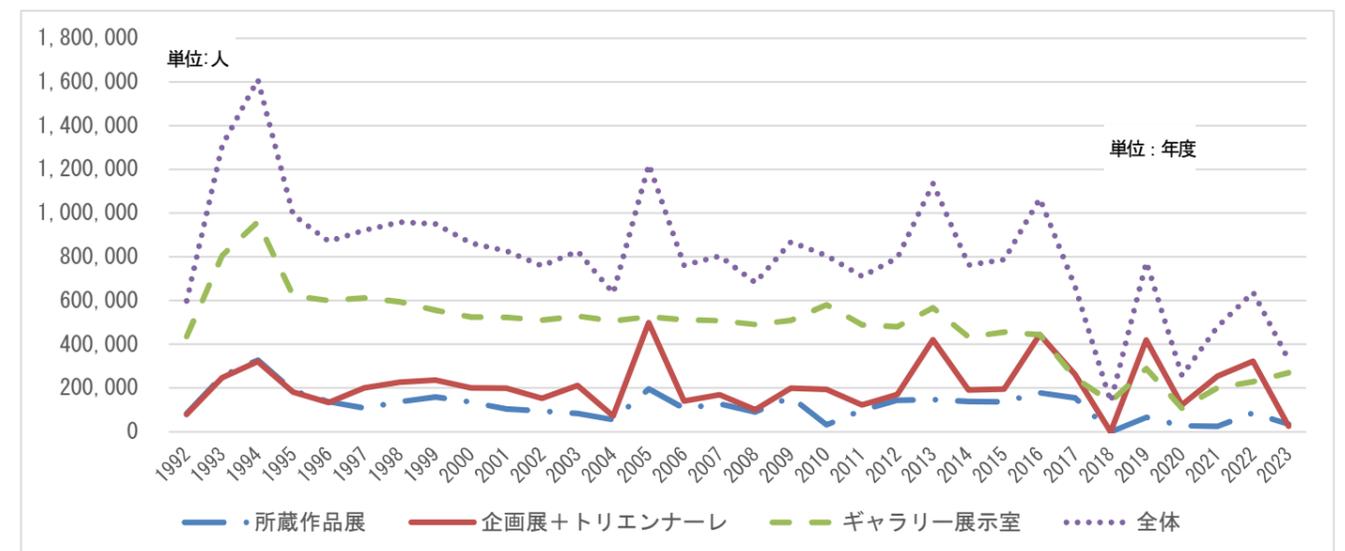
開催期	仮申込件数	ギャラリー利用許可件数	ギャラリー利用件数
2023年度 (4月～3月)	169件	179件	179件

(2) 2024年度の美術館ギャラリー運営計画

2024年度の美術館ギャラリー展示室の利用申込みは172件であったが、追加申請が1件あり、173件の利用許可をした。なお、許可後のキャンセルが3件あり、開催予定の展覧会は170件である。

開催期		仮申込件数 ①	ギャラリー利用許可件数 ②	ギャラリー利用予定件数	申込倍率 ① / ②
		2024年度 (4月～3月)	件	件	件
	継続利用	169	169	166	1.00
	新規利用	3	4	4	-
	計	172	173	170	0.99

<参考> 入館者数推移



企画展の入館者数の上位4企画展：①2005年ゴッホ展 423,745人②2017年ゴッホとゴーギャン展 225,041人③2021年ジブリ大博覧会 206,345人④2000年セザンヌ展 171,060人